



《 例会 》 毎月第 2 水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

2016~2017 年度主題

International President :Joan Wilson (カナダ)
 "Our Future Begins Today" 「私たちの未来は、今日より始まる」
 Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)
 "Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事 利根川恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」
 北東部部長 長岡正彦 (もりおか) 「明日のために、いま土台を築こう」
 会津クラブ会長 青山孝男 「明日を楽しく、共に歩もう！」

<No.260 会津通信>
 2016 年 12 月 14 日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋眞美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇12 月の聖句 ◇

マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。

ルカによる福音書 2 章 1 9 節

12 月例会プログラム

「一足早い クリスマス」
 青山孝男



12 月 3 日 Xmas ゴスペルラ
 イヴ 2016 は会津風雅堂で開
 催された。第 16 回を迎えて
 の「One Voice AIZU」 例年 9 月のコンサートだ
 ったが、今年はクリスマスとなったとのこと。ワイズ
 のメンバーが出演していることは皆さんご承知の
 ことでしょう。2 部構成で 1 部はクリスマスの物語
 生まれたばかりのイエスの元に辿り着いた彼らは、
 大事にしていた黄金、乳香、没薬という高価なもの
 をイエスに捧げた。この瞬間に立ち会った喜びを胸
 に秘め国へ帰った。この嬉しい知らせがクリスマス
 です。これらの出来事を歌で私達にメッセージとし
 て 7 曲を披露してくれました。MC を務めた高橋真
 人ワイズの語る言葉は優しくそして、わかりやすく
 小さい子どもから大人まで幸せな気分になり会場
 内には一体感が生まれ、クリスマスを祝いました。
 一足早いクリスマスを！2 部は会津マスクワイアの
 ゴスペル。16 年の成長は時代の課題と向き合いな
 がら歌うことを大切にしているという。更に各方面
 へ初回から 15 年間の献金総額は 931 万円とのこと。

(次回は高橋眞美さんです)

司会；高橋 カヲ

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| 1. 開 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連 絡・報 告 | 青山孝男会長 |
| 5. 聖句朗読・キャンドルサーヴェイス | 高橋 カヲ |
| 6. 食前感謝 | 高橋 カヲ |
| 7. 会 食 | |
| 8. 懇 談 | クリスマス祝会 |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |

あかべこ

- | | |
|-------------|--------|
| 10. 閉 会 点 鐘 | 青山孝男会長 |
|-------------|--------|

<11 月例会出席状況>

在 籍 者 5 名 ゲスト 名

出 席 者 2 名 ネット 0 名

*11 月例会出席率 40%

あ か べ こ 2,000 円

16-17 年度合計 13,000 円

☆ 強い義務感を持つとう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

会津クラブ例会より

<ゲストスピーチ・みに講話>-2

町田久次氏（プロフィールは10月号で報告）

私論「戦争期とメディア」～いったい、新聞で何が起きていたのか？～

その後に書いた「新聞疎開」は、戦争が丁度終わる頃の「福島民報」の話です。今度は何が一体あったのかということ調べました。新聞疎開ということをは分からなかったのです・・

どういう意味なのか、東京で昭和19年～20年戦争もいよいよ日本敗色が濃くなって、東京では空襲で皆地方へ疎開する。学童疎開が始まったのは昭和19年からです。新聞も東京では作れない。朝日、読売、毎日が全部地方に分散疎開をして、地方紙と一緒に発行する時代がありました。それが昭和20年の5月から10月までの話です。それを福島民報さんの社史を丁寧に調べて、登場人物もそっくりと探し出して書いたのが新聞疎開です。新聞疎開という言葉は辞書を引いても出てこなく、ネットで検索したところ学童疎開という言葉しか出てこないのです。新聞疎開という言葉は共通語になっていなかったのですが、本のタイトルとしました。



毎日新聞が福島にきて、福島民報と一緒に新聞を作ることになった時にその主人公が「いよいよ我らも新聞疎開で行くことになったよ」という言葉があるのです。だから作品の中で新聞疎開とし誰もが知っていることばだと思っていました。この作品を一つの商標登録をしようかなと、思っているのです（笑い）この言葉が気に入っているので・・・

この表題は「戦争期とメディア」し戦争時代で一体新聞で何が起きていたのかというテーマにしました。今回の話をピンポイントでいくつか拾って話したいとおもいます。戦争を遂行するために軍部と政府はとにかく全てのものを、国家の統制のもとに置かないともう戦争は遂行できないという状況になってきており、それまではまだ自由にものを書いたり、批判したりしたことはあったのですが、軍部や政府と衝突を繰り返し最後に新聞は、ウソ、でたらめの記事を載せざるを得なくなっていったということです。

今日の話で言いたいことは、新聞がもう本当のことを書かなくなってしまうらおわりです。もうすでにそこまできているのです。情報はもう特定秘密法で隠されているし、何を政府が流してくるか分からない。新聞は疑って読んでください。これが本当だとは思わないでください。これは裏があるなあ？というふうに読んでくださいというのが、今回の私の話です。

【町田氏の話は約80分に及びました。途中割愛しながら記載しましたので、ご了承ください】（青山）

【町田氏の話は約80分に及びました。途中割愛しながら記載しましたので、ご了承ください】（青山）

ユニークダンス納会



12月6日納会には12名参加。コリアンダイニングのコースを頂きながら、終始語りいで労いました。1月、2月は積雪を見込んで休みです。

会津の先人たちをシリーズで紹介します

第9代若松市長

板東俘虜（ばんどうふりよ） 收容所長

松江 豊寿（まつえ とよひさ）

斗南（となみ）の生活

豊寿は、明治5年（1872）6月6日に旧会津藩士松江久平の長男として生まれています。本籍地は旧馬場下五之町で、現在の高巖寺の東側にあります。久平は、戊辰（ぼしん）戦争の敗戦後、青森県下北半島の斗南藩に移住しました。この不毛の土地では、困窮した生活を強いられ、その苦難を久平は子どもへ語り伝えました。

武士の情け

16歳で陸軍幼年学校に入学した豊寿は、軍人としての道を歩み、大正6年（1917）44歳の時、この收容所の所長となります。豊寿は「ドイツ兵も祖国のために戦ったのだから」と敬意を表し、「武士の情け」を口癖にし、俘虜を信頼した自主性を尊重する寛容な態度を貫きました。

退役後は、求められて第9代若松市長となり、上水道の敷設に尽力しました。昭和31年（1956）82歳で亡くなりました。

第二の故郷

晩年、豊寿は、板東を理想を追うことができた「第二の故郷」と回想しています。

「板東俘虜收容所」は、世界的な視野での価値観が求められる現在、国際交流や地域間交流のあり方から再評価されています。

鳴門市では「鳴門市ドイツ館」を建設し、毎年6月には「歓喜の歌」が高らかに歌われています。【会津若松市HPより】

（次号は幼児教育・女子教育の先覚者 海老名リン氏）

◆ 今後の予定 ◆

- ◇ 1月例会 1月11日午後7時～
新年例会
- ◇ ユニークダンス例会
1月～2月は休みで

